

サギソウ

Habenaria radiata (Thunb.) Spreng.

ラン科

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

本種は本県では、かつては稀ではあるが各地の湿地に広く見られる植物であったが、近年湿地とともに急速に失われ、きわめて稀産の植物となった。(現況:V2ー)

形態

前年の走出枝の先端に生じた球茎から地上茎を出し、高さ15~40cm、茎の下部に3~5枚の葉を着け、上部には少数の鱗片葉がある。茎の先端に1~3個、3cm程度の白色の花を着けるが、白鷺が舞う姿に似ていて美しい。羽根のように見えるのは、唇弁の側裂片が細裂していることによる。

国内分布

本州、四国、九州、さらに朝鮮、台湾に分布。

県内分布

奥能登、口能登・加賀中央部、南加賀区に分布。

生態など

地生の多年生草本。開花期は7~8月。

生育環境

丘陵地の湿地。

危険要因

森林伐採、湿地開発、園芸採取。

特記事項

園芸採取が現在は最も重要な危険要因である。



白井伸和・2007年8月19日

分布図はありません。